

# ぱびるす

聖学院大学総合図書館報

第70号 (2020年春)

祝卒業・  
新入生歓迎号



## 「図書館は情報基地」



古谷野 亘

「大学図書館は高等貸本屋ではない」、毎年授業で語っているセリフである。「もちろん本を貸してもくれるが、大学図書館は学術情報の集積・加工・発信の基地なんだ」と続ける。かつて図書館長であったときに司書さんに教えられたことから、間違いではないだろう。

I T化が進んだおかげで、「情報の集積・加工・発信の基地」という表現に現実味が増しているように思える。昔からそうだったのかもしれないが、私の学生時代の図書館はI Tとは無縁だったから、「情報の基地」という感じはしなかった。目当ての図書・資料に到達するためには、まず件名目録というカードを繰るところからはじめなければならない。あちこちの引き出しを開けてカードを繰り、見つけたところで書名や分類番号などをメモする。私がいた大学の図書館は閉架式（一般の閲覧者は書庫に立ち入れない）だったので、カウンターに行って書誌情報を記した紙片を渡し、図書館の人が持ってきてくれるのを待つ。書き間違いがあれば叱られて、やり直し。目当ての図書・資料を手にするまでが大変だし、それがハズレであることも多い。遅いなあと思ったが、それは1日に何十回も階下の書庫と往復する図書館の人達の労力を考える余裕がなかったからでしかない。

その頃と比べると図書館の利用ははるかに便利になった。検索は容易になったし、電子書籍や内外の学術雑誌の論文を即座に入手して読むこともできる。

30年も前のことになるが、あるテーマで海外の研究者と競走していた。アメリカの学術雑誌にどちらが先に論文を発表するかという競走だった。言葉の問題があるので元々不利だったのだが、

言葉の問題以上に困ったのが、時間だった。原稿を送るのにも雑誌が届くのにも時間がかかった。待ちに待った雑誌が届き、相手の論文が載っていないのを見て一安心、自分の論文の方が先に載ったのを確認して大喜びということもあった。

その頃と比べると図書館を通しての学術情報の収集と利用は格段に便利になった。しかし、この便利さを生かしているかというところが怪しい。情報はそこにあるのに、それを読んで消化するのが追いつかないし、情報の取捨選択もままならない。これはI T時代の社会に特有の現象なのだとされているが、研究の世界もまた同じである。図書館の機能を利用する技術をみがいて、もっと上手に使えるようになりたいと思っている。

(心理福祉学部教授)



## 『老人の歴史』

パット・セイン編, 木下康仁訳 東洋書林, 2009.12.

高齢者はどのように見られ、扱われてきたのか。ヨーロッパを中心に、絵画や彫刻、文学などを通して、老年期の多様な姿を浮かび上がらせている。日本とはかなり違うので、どこが同じかを考えながら読むとよいだろう。



図書館所蔵あり 3F 書架 367.7||Th1

## 「図書館の思い出」



116P104 藤野 里紗

私が図書館のライブラリー・アシスタント(LA)の存在を知ったのは、1年生の時の図書館内で行われる授業の前、学生が職員の方と一緒にパソコンなどを準備しているところを見たのが初めてでした。授業前のわずかな時間内で迅速に設置作業をこなしているところを見て、パソコンや機械作業に疎かった私は「パソコンの設定とか大変そうだな。私には難しくて出来そうもないな。」と正直に思っていました。そんな私はその後、友人からの紹介がきっかけでLAとして働き始めました。

私は2年ほどLAとして図書館に勤めていましたが、一番の思い出は“POP作り”という、半年に1回行われるスタッフが図書館内にあるおススメ本のPOP(簡単な紹介)を作るという業務を通じて図書館の凄さに触れられたことです。

POPをつくる前に、紹介する本を探そうとしましたが改めて考えると、私は図書館内の本をレポートや業務、授業、就職活動以外でほとんど探したことがなかったため、暇な時間を見計らって、POP作りのための本を探しに図書館内を散策しました。しかし、いざ探し始めると図書館内の本は種類やジャンルが数多くあり、本を探そうにもより取り見取りすぎて逆にどの本を選んでいいのかわからなくなりました。そこで改めて、図書館内の本の量と質の凄さに感動し、それと同時にこの感動を4年の最後の方で感じてしまったことに「もっと早く気付いていれば」と悔しくもなりました。

これから入学する新入生の方々には是非とも図書館内を散策してほしいと思います。大学生活では、レポートの作成や授業で図書館と関わっていくことが多くなります。ですが、ただ授業の時だけ利用するのではなく、突然の休講や授業の空き時間などが出来ましたら、図書館によっていただき、「自分の通っている大学の図書館ってこんなにもすごいんだ!」と感動してもらいたいです。

(政治経済学科4年)

## 「私と図書館の出会い」



119J034 今野 果林

私が初めて図書館に出会ったのは小学校低学年の頃だった。授業で地域の公共図書館へ行ったことをきっかけに、よく行くようになった。その頃の私は、図書館という大きな建物から、自分が気に入った本を探して読むことが一種の『宝物探し』のような感覚で楽しかったのだろう。それから中学に進学してからも図書館で勉強したり、勉強しないでずっと本を読んでいたりが多かった。それは高校生になっても変わらず、今は聖学院大学の図書館によく行っている。

聖学院大学の図書館ではライブラリー・アシスタント(LA)という学生アルバイトがあり、「やってみよう!」と思ったのも、この大学を選んだ理由の一つだ。面接の際に結構応募者がいることを知り採用されるか不安だったため、受かったと知らせが来た時は驚きと同時にその場でガッツポーズをしたくなるくらい嬉しかったのを覚えている。大学の図書館には今までの図書館にはなかった物がたくさんあり、これは一日中いられるなど感じた。気になったところはまず、アクティブラーニング室という部屋だ。そこは学生が自由に使える場となっていて、友達と勉強や、プレゼンの練習時などに使える空間となっている。次にパソコン(PC)やiPadを貸出していることだ。PCはまだしも、学び舎では扱わなさそうなiPadを貸出していることには心底驚いた。私が一番気に入ったものは『学生選書』であり、自分が読みたい本を本屋さんで選んで図書館に置いてもらうことができ、さらに図書カードも貰えるので本好きにはたまらないものだと感じた。LAになってからの仕事はどれも楽しく、図書館の職員さんも親切で優しい方達ばかりだった。だが授業の関係で短い時間しかできなかったのが心残りだ。これから応募する学生はそうならないように注意してほしい!秋学期には時間割の関係で応募できなかったが、これからも図書館には足を運ぼうと思う。最近は授業の課題に追われており本を読めていないため、長期休暇に入ったらたくさん借りようと考えている。

(日本文化学科1年)

## 名は体を表す-「SERVE」、次の10年に向けて

司書課 SERVE 担当 田山 恭司

聖学院学術情報発信システム (SEigakuin Repository and Academic ArchiVE) 「SERVE」が2019年2月をもって、公開10周年を迎えた。今年度は11年目ではあるものの、10周年に関してここまで触れていなかったこともあり、今回この場を借りて述べたい。尤も、10年間のおおよそはSERVEでも公開中の聖学院大学30周年記念誌『扉を開いて』にて触れられているので、今回はSERVEという名称について書いていきたいと思う。

SERVEは正確には機関リポジトリとは呼べないシステムだ。というのも研究成果の登録・公開・発信を主とする機関リポジトリであるにも関わらず、SERVEでは先にも触れた30周年記念誌やこの図書館報『ばびるす』や別部署の報告書等の研究成果とは言い難い資料も登録・公開されているからだ。これは、SERVEがリポジトリに限定されず、より広い意味のアーカイブとしての役割を持っているからである。これは、SERVEの“VE”が「Archive」の末尾から取られていることから見て取れる。

なぜSERVEが機関リポジトリという看板を掲げたアーカイブとなったかと言えば、これには当時の図書館職員の思いがこめられている。SERVEが稼働を開始した聖学院大学20周年という時期は、節目ということで大学側も記念事業で動きを見せていた。その際、図書館へ大学に関する資料提供依頼があった。ところが当時の図書館には（少なくともすぐに取り出せる範囲には）資料がほとんどなかった。それは他部署でも同様であったが、資料の収集・保存を主業務とする図書館にとっては大変な危機感を持つ事態だった。そこで図書館職員らは電子化による保存を模索していく中で、文部科学省の学術機関リポジトリ構築連携支援事業の採択を受けてSERVEを構築した。そこに保存する資料は、聖学院大学が発行したものであればなんでも入れる、をモットーに現在も続いている。節操がないと言われればそれまでであるが、おかげで他部署にも浸透し、

協力体制ができたと自負している。

今後の野望についても名称から見てとれる。それは、「聖学院大学」ではなく「聖学院」の学術情報の発信システムであることだ。現在大学や大学院・総合研究所発行の資料に留まっているSERVEの搭載資料であるが、今後は聖学院全体の資料の保存・公開を担うシステムとなるべく運用を続けていきたい。

### 2019年度 図書館の動き

#### ● 4F 閲覧室の模様替え

4F 閲覧席リニューアル第一弾として、閲覧室の机と椅子をすべて可動式什器に入れ替えた。

#### ● 車いす閲覧席を全階に設置

3Fに車いす用閲覧席（電動稼働天板机）を設置した。これにより、図書館全階に車いす用閲覧机が設置された。

#### ● Youはどうして図書館へ?

5月に図書館情報学課程共催による、現役図書館員の卒業生を交えた座談会を1号館1cafeにて開催した。また前号(69号)にて単独特集を行った。

#### ● 図書館内各種コンテスト開催

10月に第3回聖学院大学総合図書館フォトコンテスト（テーマは「夏」）を、1月に第1回書評コンテストをそれぞれ実施した。

#### ● 聖学院大学公開イベント実施

OKEGAWA hon プラス+で、6月に児童学科の寺崎恵子先生による講演「絵本でほっとコミュニケーション：ママの声にこころが動く」&全国大学ビブリオバトル地区予戦、2月に日本文化学科の阿部能久先生による講演「戦国時代の埼玉：英雄たちの舞台」が開催された。

#### ● 洋雑誌、パッケージ契約に切り替え

2020年1月より、継続購読洋雑誌の一部を電子ジャーナルパッケージ（JSTORおよびProQuest）へと切り替えた。

# 2019年図書館の統計

(2020年1月31日現在)

## I 図書館の推移

	学生数	蔵書数	年間受入冊数	開館日数	貸出冊数	資料費
	人	冊	冊	日	千冊	千円
2019	2,014	309,297	3,781	262	8.9	26,760
2018	1,780	309,059	3,791	275	7.6	26,583
2017	1,725	306,655	3,483	274	8.6	26,666
2016	1,846	306,694	3,304	280	9.9	26,285
2015	2,098	304,757	3,943	283	11.5	26,718
2014	2,161	300,897	3,053	281	13.3	27,788
2013	2,419	299,396	3,343	282	14.2	27,216
2012	2,513	296,694	4,261	283	15.8	27,654
2011	2,677	293,148	4,930	275	16	30,849
2010	2,768	288,629	5,116	288	16	30,465
2009	2,724	283,610	5,042	281	16.9	30,497
2005	2,968	254,921	6,878	232	18.4	29,700
2000	2,549	219,368	6,769	274	18	35,805
1995	2,137	163,506	13,438	271	21.5	39,700
1990	1,769	96,752	8,195	280	11.8	22,650
1985	1,005	51,000	5,043	284	10.1	12,399
1980	877	36,000	2,599	236	6.8	7,588
1975	763	22,000	4,265	183	3.5	3,754
1968	256	10,000	2,838	[247]	[1.4]	[1380]
1967	125	7,000		[247]	[1.4]	[1380]

規程の変更に伴い、1999年以降は消耗品図書も含めた冊数とした。

## II 蔵書冊数

	和書	洋書	合計
総記	11,831	1,465	13,296
哲学・宗教	22,687	16,215	38,902
歴史・地理	19,981	3,384	23,365
社会科学(含教育学・福祉)	84,957	18,773	103,730
自然科学(含医学)	13,487	1,216	14,703
工学(含家事)	7,331	484	7,815
産業	5,771	471	6,242
芸術(含楽譜)	11,653	954	12,607
語学	11,272	2,991	14,263
文学	44,021	14,335	58,356
その他	10,497	5,521	16,018
合計	243,488	65,809	309,297

## III その他の蔵書資料数

和雑誌(紀要・寄贈含)	385	カセットテープ	669
洋雑誌(寄贈含)	81	ビデオ・LD・DVD	3,235
スライド	34	CD	1,456
マイクロ資料	18,814	CD-ROM	892

## IV 館外貸出冊数(図書・製本雑誌):分類別

(2019年4月1日～2020年1月31日) 学生・院生・履修生のみ

	和書	洋書	合計
総記	243	0	243
哲学・宗教	996	7	1,003
歴史・地理	659	2	661
社会科学(含教育学・福祉)	2,639	2	2,641
自然科学(含医学)	368	2	370
工学(含家事)	136	0	136
産業	166	0	166
芸術(含楽譜)	429	5	434
語学	912	12	924
文学	1,509	20	1,529
その他	846	6	852
合計	8,903	56	8,959

## V 館外貸出冊数:学科・学年別

(2019年4月1日～2020年1月31日)

所属・学年	図書(製本含む)	未製本雑誌	CD	
政治政策	2年	1	4	0
	1年	3	0	0
アメ・ヨ文化	後3年	88	2	0
	後2年	4	0	0
	後1年	0	0	0
	2年	14	0	0
	1年	1	0	0
人間福祉	2年	50	2	0
	1年	0	0	0
科目等		3	8	0
大学院生小計		164	16	0
政治経済	4年	259	2	22
	3年	292	19	23
	2年	461	2	16
	1年	319	0	13
コミュニティ政策	4年	0	0	0
欧米文化	4年	426	1	14
	3年	241	0	15
	2年	402	15	4
	1年	612	6	22
日本文化	4年	408	5	7
	3年	490	6	7
	2年	699	27	35
	1年	658	0	17
児童	4年	269	16	1
	3年	486	6	1
	2年	339	0	2
	1年	773	0	2
こども心理	4年	38	3	0
	3年	118	8	1
心理福祉	2年	630	3	1
	1年	309	8	9
人間福祉	4年	191	8	3
	3年	217	2	0
科目等		158	1	2
学部生小計		8,795	162	217
院生・学生合計		8,959	178	217

## VI その他(他館との協力等)

(2019年4月1日～2020年1月31日)

資料借用	27 (内、学生・院生 3)	複写依頼	107 (内、学生・院生 23)
資料貸出	37	複写受付	298
紹介状発行	1 (内、院生 0)	視聴覚コーナー利用	300
		館内ノートPC貸出	2,988
紹介状受付	3	館内iPad貸出	13
文献検索	34	マイクロ利用	3

発行・編集 聖学院大学総合図書館  
〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号  
電話 048-725-5461 FAX 048-780-1096  
E-mail: lib@seigakuin-univ.ac.jp  
URL: http://lib.seigakuin-univ.ac.jp/